

本年度学校教育努力点とその推進計画

(1) 研究主題

主体的に学習に取り組む児童の育成 ～LET's THINK その先へ～

(2) 主題設定の理由

人口減少や少子高齢化、DXの進展やウェルビーイングの深化などにより、これまでの社会のあり方や人々の価値観が多様化してきている。一人一人の望む人生も違えば、興味も関心も、得意も苦手もみな違う。さらに、グローバル化も進展し、地球規模の課題にも対応することが求められ、世界の人々と互いに尊重し合い、対話しながら、未来を切り拓いていく必要がある。そんな社会のつくり手・担い手を育むためには、子どもたち自身が、学校での学びを、ただ与えられるだけではなく、自分たちの手で作っていき経験が必要である。

このような状況を踏まえ、本校では2年前から努力点研究のテーマを「主体的に学習に取り組む児童の育成」と設定し、日々実践を積み重ねてきた。昨年度の実践から、本校の児童は、課題を解決する方法を自分で選択したり、難易度が異なる類似問題に取り組ませたりすることで、学習意欲を高めることができた。さらに、授業が進む中で課題解決の方法を見直し、修正することで課題解決に向けて取り組むことができた。

そこで今年度は、「主体的に学習に取り組む児童の育成」の3年目として、子どもたちが学びを通して、学びの面白さを感じ、結果として達成感や成就感を味わい、自分の得意な領域を見つけてほしいと考える。そのためには、子どもたちが夢中になって、また、じっくりと自分なりの問いを立て、自分なりの方法で、自分なりの答えにたどり着くことができるような、「探求的な学習」を実践し、主題に迫っていく。ここでいう「探求的な学習」とは、学習指導要領解説に記載の「物事の本質を探ってみ極めようとする一連の知的営みのこと」であり、「問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく」学習活動のことである。このように子どもたちが夢中になって学習に取り組み、探求していくことで、これからの持続可能な社会の創り手を育成することにつながるのではないかと考える。

(3) 探求的な学習の手立て

① 個別最適化学習

- ・ 児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間の柔軟な提供・設定を行う。

② 自由進度学習

- ・ 「学習計画表」に基づいて自分のペースで教科内容を学び進める学習方法。教師は子どもたちの自立した学習が成立するように教材や学習環境を整える。

(4) 研究の進め方

- 各学年、前期・後期で1回ずつ授業公開をする。
- 公開授業の単元だけではなく、1年間同じ手立てで行う。その中で、「探求的な学習」をしていき主題に迫っていく。
- 低・中・高の部会で事前・事後検討会・参観を行う。
- 日頃取り組んでいる努力点に関する授業を授業参観で保護者に参観してもらう。また、中学校ブロックの公開授業で同ブロックの教員にも参観してもらう。

(授業参観…4/22、10/16、2/16～18 ブロック公開授業…7/2)

(5) 研究組織

校長	教頭	努力点推進委員会 主幹教諭 教務(推進委員長) 各学年推進委員	低学年部会 1年生担任 2年生担任 7学年	中学年部会 3年生担任 4年生担任 7学年	高学年部会 5年生担任 6年生担任 7学年	特別支援部会 さわやか組 担任 なごやか組 担任
----	----	---	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---

※ 7学年は、努力点授業を行うクラスの部会に所属をする。

1学期		2学期		3学期	
4月10日	職員会議(提案)	9月8日	中間報告会(紙面)	1月22日	最終報告会
4~7月	各学年で授業実践	9~11月	各学年で授業実践	3月2日	努力点推進委員会
5月2日	努力点検討①	12月	学年だよりに掲載		
16日	努力点検討②	冬休み中	最終報告書作成		
6月9日	努力点検討③				
7月2日	ブロック公開授業				
7月	学年だよりに掲載				
夏休み中	中間報告書作成				

(6) 学校だよりでの努力点報告

- 夏休み号・・・1学期の経過報告(成果と課題、授業実践)(1学年:A5サイズ程度)
学年だより夏休み号を作成し、各学年で配付する。
- 冬休み号・・・2学期の経過報告(成果と課題、授業実践)(1学年:A5サイズ程度)
学年だより冬休み号を作成し、各学年で配付する。